様式３－３　　【新規】

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成２７年度）
― 研究課題２　中学校―

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道

公立 ・ 私立 ・ 国立 （○で囲む）

1　研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくあさひがわちゅうがっこう 北海道教育大学附属旭川中学校				ふりがな 校長氏名	あんどう　ひでとし 安藤　秀俊
所在地	〒070-0874　北海道旭川市春光４条２丁目１番１号 電話　0166-53-2351　FAX　0166-53-2861　E-mail　asa-fuchu@j.hokkyodai.ac.jp					
(H27.4.1 現在)	１年	２年	３年	計	(H27.4.1 現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数　１７名 ［調査研究にかかわる教科等の教員数］ １名	
学級数	3	3	3	9		
生徒数	109	112	122	343		
特記事項						

2　研究主題

教科等名	技術・家庭科【家庭分野】	教科課題番号等	①
当センターが提示した研究課題	内容「Ａ家族・家庭と子どもの成長」（３）において，幼児と触れ合うなどの活動を通して，幼児への関心を高め，関わり方を工夫できるようにするための指導と評価の研究開発		
学校における研究主題	よりよい生活を主体的に創造する力の育成		
研究主題設定の理由	本校では，平成２６年度より「よりよい生活を主体的に創造する力の育成」を主題として問題解決的な学習をもとにした研究を進めてきており，本年度は上川管内技術・家庭科研究会と協力し，生活を工夫し創造する能力の指導と評価について研究を進める予定である。 子どもたちは内容Ａ「家族・家庭と子どもの成長」において，幼児の発達の学習には自分自身の成長を振り返りながら意欲的に取り組んでいる。しかし，毎年実施している幼稚園訪問では，日常的に幼児とかかわる機会が多い生徒はかかわり方を工夫して意欲的に取り組むことができるが，かかわる機会が少ない生徒は幼児とかかわること自体が苦手という生徒も多い。そこで，幼児との触れ合い体験を行い，幼児と直接かかわる機会を設けるとともに，生徒にどのような意図をもたせて体験させるのか，その結果をどのように振り返らせるのか，その指導と評価を工夫する。また，幼児に関する基礎的・基本的な知識及び技術を明確にし，その定着を図るため，題材設定や指導方法を工夫したい。これらを通して，幼児とのかかわり方を工夫できる能力を育みたいと考え，主題を設定した。		
研究の内容や方法等	内容「Ａ家族・家庭と子どもの成長」において，次の内容について調査研究する。 １．「幼児と触れ合う活動」を通して，幼児への関心を高め，かかわり方を工夫できるようにするための指導計画を工夫する。 ２．ＩＣＴを活用することによって，幼児の心身の発達に関する基礎的・基本的な知識の定着が図られたか検証する。 ３．幼児の心身の発達について学習したことが，触れ合い体験での観察や幼児とのかかわり方の工夫にどのように生かされるかワークシートの記録などをもとに検証する。 ４．幼児と触れ合う活動における「生活を工夫し創造する能力」の観点の評価の判断基準は適切であったかどうかを検証する。		

成果の検証方法等	○事前, 事後にアンケートを行い, 幼児や家族への関心の高まりや意識の変容を把握する。 ○思考の過程がわかるワークシートを作成し, 触れ合い体験の前後でどのように生活を工夫し創造する能力における記述が変容したのかを分析する。 ○授業公開をし，上川管内技家研究会において研究協議を行い，成果等を分析する。

3　研究体制等

【校内の研究体制】
○技術・家庭科部会　○職員研修
【校外の研究体制】
○北海道教育大学との連携　○上川管内技術・家庭科研究会との連携

4　研究計画

	実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
一年次	４～７月	○２学年で実施する内容Ａ「家族・家庭と子どもの成長」の（３）「幼児の生活と家族」ア「幼児の発達と生活の特徴, 家族の役割」イ「幼児の観察や遊び道具の製作，幼児の遊びの意義」ウ「幼児とのふれあい，かかわり方の工夫」及びエ「家族又は幼児の生活についての課題と実践」の指導計画, 指導方法を検討する。また，アンケートを実施し，生徒の実態を把握する。 ○幼児の心身の発達と遊びの意義について，ＩＣＴを活用するなどして効果的な指導方法の検討，授業実践を行う。 ○幼児の発達の学習を生かして, 触れ合い体験に向けた計画を工夫する授業実践を行う。 ・「生活を工夫し創造する能力」を見取るために，思考の過程を把握できるワークシートを工夫し作成する。 ○記録用紙を工夫して幼児との触れ合い体験を行い，評価を行う。	○生徒の実態を把握し，実践の手立てを検証することができる。 ○問題解決的な学習を進め，教材等を工夫することで，幼児の心身の発達や遊びに対する関心・意欲・態度の高まりや知識の定着について把握することができる。 ○生活を工夫し創造する能力の評価方法を示すことができる。
	８～１２月	○触れ合い体験実施後に, 幼児とのかかわり方の工夫を考える授業実践を行う。 ・触れ合い体験で観察したことを生かして，幼児の心身の発達段階に応じたかかわり方の工夫を考える授業実践を行い, 触れ合い体験の効果を検証するとともに，その評価について検討する。 ・授業実践については，上川管内技家研究会で会員に公開し，授業研究をすすめる。 ○アンケートを実施し, 授業の前後による幼児や家族への意識の変化を分析する。	○広く公開することにより，研究課題を再確認し，研究の進め方を検討する。 ○生活を工夫し創造する能力を育成するための効果的な指導計画を明らかにすることができる。
	１～３月	○これまでの成果と課題を整理する。	
二年次	４～７月	○１年次の成果と課題をもとに，改善した指導計画を検討する。 ○１年次の課題をもとに，改善した授業実践を行う。	○生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育成するための具体的な指導方法等について示すことができる。
	８～１２月	○1 年次の課題を改善し, 生活を工夫し創造する能力を高める授業実践を行う。 ・全国技術・家庭科研究大会で公開し，協議を通して授業の検証を行う。	
	１～３月	○これまでの取組の成果と課題を整理する。	

5　研究のまとめや成果の普及方法等の見通し

・研究成果は，上川管内技家研究会などで公開し，研究協議を行うことによって，研究の深化と成果の普及を図る。
・平成 28 年度全日本中学技術・家庭科研究大会において発表